

自助・共助で支える地域の絆

被災地を想い黙とうを捧げる参加者



東日本大震災から一年。くすのき地区自治連合会は3月11日、地震を想定した合同防災訓練を開きました。同連合会は、平成22年の小学校再編により8団体が統合し誕生。住民の災害への関心が高まる中、地域合同で行う初の取り組みです。訓練は、住民に災害時の避難場所などを知ってもらおうと、各団体の自主防災隊が中心となり実施。震度6強の地震を想定し、住民約500人が参加しました。参加者は、新防災行政無線

500人 助け合い拠点避難地へ移動

からの避難指示を合図に、近所の指定集合場所へ移動。ケガ人などは車いすに乗せるなど助け合い、拠点避難地となる小学校を目指しました。その後、くすのき小でセレモニーを開催。参加者全員で黙とうを捧げ、被災地の復興を願うとともに、災害での自助・共助の大切さと、支ええられる地域づくりへの想いを新たにしました。最後に救援物資の配布訓練を行い、有事の際に備えました。訓練後、各団体の代表者が集まり反省会を実施。新たに浮上した問題点を踏まえ、今後の事態に備えていきました。



災害に備えて避難訓練に取り組む参加者



救援物資の配布訓練の様子

電柱に貼るハザードマップを見せる中学生班の発表



「子ども会議」で市長に提言
「八幡市子ども会議」が3月20日、松花堂美術館で開かれました。水害対策や環境対策など、子ども目線で考えた率直な意見を市長に提言しました。自分の住むまちをよくしようと、立命館大学政策科学部の稲葉セミと連携して行う取り組みも8回目を迎えました。市内の小中学生32人が4グループに分かれ、昨年7月から調査や討議を重ねてきました。水害対策をテーマにした班は、洪水時の水位や避難場所などが分かるように、電柱に貼れるハザードマップ作りを提案しました。

「子ども会議」で市長に提言

また。

ほかにも、節電に役立てようとして、放置竹林を整備し、竹材の有効活用として「よしず」作りを提案。ごみを無くす目的で、啓発チラシを入れたティッシュ作り、交通安全対策についての発表があり、班ごとに試作品を見せて取り組みをアピールしていました。

水害対策について提言した隅田一樹さん(14)は「アンケート調査など大変だったけど、自分のまちに関わる調査が出来て楽しかったです」と、達成感でいっぱいでした。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

思いやりの心を大切に

第4回 八幡人権・交流センターまつり

「第4回八幡人権・交流センターまつり」が3月3日、八幡人権・交流センターで開かれました。来場した約800人は、作品展示やイベントを通じて、人権の大切さを学びました。

このイベントは市民の人権意識の向上を目指し、市が毎年主催しています。

会場では、模擬店や市内の保育園・小中学生などの作品を展示。また、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の子どもたちが「元気」をいっぱいありがとう

と、感謝の気持ちをつづったメッセージや絵も飾りました。

ステージでは、保育園児の歌や人形劇、人権学習総合講座受講生によるゴスペルライブが行われました。

最後に、音楽や踊りを通じて命の尊さを訴える西表島の三線アーティスト「南ぬ風人まーちゃんバンド」が演奏を披露。「自然破壊はやめて、地球と仲良く暮らしましょう」と、来場者に思いやりの心や自然環境保護を訴えていました。



歌や踊りで命の尊さを訴える「南ぬ風人まーちゃんバンド」の演奏

松花堂で「金澤翔子展」 躍動感あふれる22点

母と二人三脚で書家の道を歩むダウン症の女流書家・金澤翔子さんの展覧会が、3月24日から松花堂美術館で開かれています。

金澤さんは、5歳から母泰子さんに師事し、腕を磨いてきました。20歳で初の個展を開き、大河ドラマ「平清盛」で題字を揮毫するなど、今最も注目を集める女流書家です。

展覧会は、松花堂美術館開館10周年記念事業の一環として開催し、今年の干支「辰」がテーマ。「潜龍」「亢龍」など6点を異なる字体で書き上げた作品「六龍」や、東日本大震災後に作成した「絆」など、躍動感あふれる大小さまざまな作品22点が展示されています。

23日には金澤さんを招いた内覧会を開催し、母泰子さんは「本人も苦心しながら作成したので、充実感のある作品が並んでいると思います」と話しています。

開催期間は5月6日まで(月曜休館)、午前9時～午後4時30分。観覧料は一般400円、大学生300円、高校生以下無料。問い合わせは同館(☎981-0010)。



展示された作品を見て回る金澤翔子さんと母泰子さん